



生活保護世帯	114万世帯 159万人	2008年10月
失業者	失業者 304万人 (09/1~3)	雇用保険受給者は約20% 29歳以下では男7.5% 女23.1% (対失業者数 2006年)
失業者 無業・就業希望・非求職 非正規転職希望・追加就業希望 低処遇正規 男250万女200万以下 自営・家族従業者転職希望	304万人 161万人 368万人 551万人 57万人	合計 1441万人 失業、反失業者の実態
ワーキングプア	働いても生活保護以下	500~700万人
200万以下の給与所得者	1023万人 22.8%	2006年
勤労世帯で生活保護以下	674万世帯 19%	07年 後藤道夫
生活保護以下世帯	785万世帯 15%	07年 後藤道夫
多重債務個人破産	約148.000件	07年
多重債務者	約200万人	
経済的理由による自殺	約8000人	02年以降
国民健康保険の滞納	470万世帯 34万世帯が資格証明書 120万世帯が短期保険証	08年
貯蓄ゼロ世帯	約20% 単身世帯は約30%	07年
就学援助	134万人 全児童の12.8%	04年 生活保護の1.1~1.2倍
公立高校授業料未納	約7%	07年 抽出調査 日高教
家族政策支出(保育サービスなど)	先進国最低の 0.7%	1位はデンマークの3.9%
長野県の地域最低賃金	681円	(年2000時間働いて136万円)
餓死・孤独死の記事数	87~00年は多くて4件程度	01~08年では少ない時で16件

# 貧困の諸相

雑誌『社会保障』冬季号が、第37回中央社会保険学校の講演を特集しています。

その中に参考資料として「貧困の諸相」がありましたので紹介します。

講演内容から整理したものや他の資料から抽出したのもあります。

まだまだたくさんあると思います。さらに整理し充実させることで、貧困の実相に迫る事が出来るかも知れません。それぞれの運動分野で

は、それぞれの数字を扱うことで、国民一人一人の生活のすべてでどんなに貧しい状態に置かれているのか把握する必要があります。

そして、自分自身が貧困と隣り合っていて、ちょっとしたきっかけで滑り落ちてしまいかかわらないという現実を直視できればと思います。

様々な数字をお知らせいただければと思います。表を見ながら、貧困の実

態に迫る話し合いや、憲法をくらしに生かすための話し合いなどができれば幸いです。



# 相談現場からのレポート

八回の相談会で寄せられた相談は二百数十件に上った。その一件一件を詳細に報告することはできませんが、最近の特徴的な相談について生健会の林隆男さんにレポートしてもらいました。

## 外国籍男性 妻子あり。派遣切り。

家族は奥さんと子ども4人。

昨年12月、派遣先で解雇される。寮を出て夫婦と同居。台所付きの四畳半が二部屋と三畳の三部屋の住宅に8人で生活。

家賃と光熱費を毎月3万円払いながら同居していたが、10月で雇用保険が終了。姉たちもアルバイト収入しかないの、これ以上世話になれないと相談に来る。

福祉課で相談したが、アルバイトを自分で見つけたいと生活保護はできないとのこと。しかし、やはりアルバイトの初期費用がない。

次にハローワークに行き融資制度はないか相談する。その結果、住宅確保等のための就職安定資金融資制度の対象に該当するとのこと。適用を受け、労働金庫融資で借家を見つかる。

住宅入居の初期費用のうち敷金以外は返済免除、生活費月15万円、家賃最大9万円まで6ヶ月のうち半分は返済免除とのことだが、6ヶ月以内に安定した就職が見つかからない場合は全額返済とのこ

## 外国籍28歳女性。派遣切り。

とで本人は必死で仕事を

昨年12月、4年間働いていた会社を解雇され、派遣会社の寮を退去。姉夫婦のアルバイトに身を寄せたが、姉の主人の仕事の関係で姉たちは他県に引っ越し、アルバイト1人で住んでいたが雇用保険が七月で終わると家賃三万五千円も水道光熱費も払えなくなった。

そのため、妻帯者の三十代の知人男性の借家に身を寄せていた。妻帯者ある男性とはいうものの、妻は出産のため一時帰国して、一軒家に男性と本人の二人だけ。

心配した従妹が相談。そこを出てアルバイトを借りたいがお金がない。国保税も市民税も滞納していた。

面倒を見ていくれた男性も、月に七万円にも満たない収入なのでそれ以上世話にならない。

一時帰国した妻も二十代の独身女性と同居していることを怒っているとのこと。で福祉課へ何度も同行して相談の結果、アルバイト入居の初期費用も含めて生活保護

## 一番新しい相談

外国籍の59歳。日本に

来て二十年。独身。東京、名古屋、三重で働いていた。三重県のホンダの会社

生健会の林さんに現場の実態をレポートしてもらいました。試してみたいので週に千五百円で食べて

みてください。レポートにはありませんでしたが、食パンを一日一食食べて食いつな

いできた人もいました。労働組合などでは、最低賃金で暮らしてみる、体験などが行われていま

すが、そこどころの話ではありません。仕事で嫌な結果ではありません。ごく普通に働いてきたのに、非情な派遣切りに遭った結果です。こうした人々を大量に

# 週間千五百円の食費

作り出しておきながら、最近ではどうでしょうか。少し仕事が増えたから、皆さんの培った技量を再び発揮して欲しいなどと、探り手ですり寄るような気持ちの悪い態度を恥ずかしくもなく示しています。

林さんのレポートは外国人労働者の三つの事例となつていますが、日本人でも全く同じです。日本では海外に出稼ぎに行くというは多少はありますが、ほとんど経験のないことです。

しかし、国内での出稼ぎの経験はたくさんあります。農作業のできない冬場に暖かい地方の土木作業

で働いていたときにプレス機の前で転倒し、労災で入院治療。治ってから同じ会社で七年働いていたが病気で解雇された。兄家族のいる上田に昨年移つてきて世話になっている。



(鳥毛)